

令和8年度首里城扁額製作検討委員会 第1回【議事概要】

日時：令和8年8月17日（月）13：30～15：30

会場：扁額作業場

1. 今年度の首里城扁額製作検討の概要【資料1】

- 委員からの意見等はなし

2. 本製作の作業進捗について【資料2】

- 扁額の重量について、計算上では約 250 kgとのことだが、扁額を吊り上げる機会に正確な重量を測定し、記録として残すこと。
- 1枚目扁額「中山世土」について、委員会として完成を承認することで良いか。
 - 異議なし
- P7の木工見学会について、木工のどの部位をどのような対象者に見せたのか。
 - 地板、額縁構造部、吸付棧が完成した段階で、組み上げの作業見学及び質疑応答を1時間半程度行った。ウッドクラフト組合に所属する県内木工技術者を対象とし、7名が見学会に参加した。復元事業において目指すべき水準を間近で見ることのできる良い機会であったと考える。

3. 扁額本作及び試作の展示について【資料3】

- 委員からの意見等はなし

4. 2枚目、3枚目の仕様に関する検討【資料4群】

- 資料4-4、「墨ふくり帰シ塗」の工程について、布着せを施した場合の柿渋を塗布するタイミングとしては、布着せ前の木地の段階か、布着せ後の松明灰墨+杓度越漆を塗布する前の段階かを確認したい。
 - 柿渋は木を固めるために用いるので、布着せ前の木地固め段階だと考える。
 - 3枚目の墨ふくり帰シ塗は、合同WGの結論通りの仕様にて決定する。
- 「墨ふくり帰シ塗」の手板について、試作ではヒノキ材を使用した但本来はイヌマキ材であるため再度試作を行いたい。
 - 材を変更した場合に大きな差が生じるようであれば関係者で確認されたい。
- その他、資料4群について意見等はないか。
 - 2、3枚目の御印仕様は、合同WGの結論通りの仕様にて決定する。
 - 2、3枚目の題字仕様は、合同WGの結論取りの仕様にて決定する。

5. 扁額部分試作等の保存について【資料5】

- トレーシングペーパー（以下、トレペ）の経年劣化は数十年でボロボロ崩れた例もあり、防ぎようがない。原書の劣化を抑制する策としては、可能な限り原書を広げないことや、原書を丸めずに平置きで保管する等が考えられる。原書の保存と展示・閲覧等の活用は2段階で分けて考え、活用への対応のためコピー複製を作成してはどうか。

- 原書を（トレペから）和紙に写すべき方針に賛成する。トレペはどう考えても保存する紙ではない。
 - トレーシングペーパーの崩壊は避けられないため、題字の原書を磨り墨を用いて和紙に敷き写し複製をつくることは可能であり、それを推奨する。
 - 原書の保管方法等については、保管先となる沖縄県県立博物館・美術館とも調整を行うこと。また、複製方法については、事務局で引き続き検討を行うこと。
 - 原書の写し方法としては2つある。透ける和紙を使って原書に被せて写すか、原書の裏から光を当てて透かして写すか。

6. 3枚目製作体制について【資料6】

- 3枚目製作体制について、事務局提案の通りでよいか。
 - 異議なし

以上